



JAC北九だより

No.64 (平成25年 第2号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
 支部長 伊藤 久次郎
 事務局:福岡市早良区昭代 3-9-5-502
 山田 武史方
 TEL-FAX 自宅 092-844-3563
 携帯 090-6422-5662
 編集人: 竹本 正幸
 印刷: 山口県山口市水の上町2-25
 内藤 製本所

2013年度 第14回通常総会のお知らせ

- とき 平成25年4月20日(土)
 ところ ホテルニュータガワ(小倉)
 TEL093-521-7000
 北九州市小倉北区古船場町3-46
 「モノレール旦過駅」下車徒歩1分
1. 受付 午後2時から
 2. 記念講演 午後3時~午後4時30分
 講師 福村 拓己 会員
 演題 「山口県西部に飛来する
 アサギマダラ」
 3. 総会 午後4時40分~午後5時40分
 4. 懇親会 午後6時~午後8時
 5. 懇親会費 1人 5000円
 6. 締切り 出欠は、案内状同封の八ガキで
 4月12日(金)まで必着のこと。
 7. 問い合わせ
 事務局 山田武史まで
 (TEL/FAX 092-844-3563)

記念講演

「山口県西部に飛来する
 アサギマダラ」

講師: 福村拓己氏の略歴



- ・1947年 徳島県阿南市生まれ
 徳島県立富岡西高等学校卒業
- ・1972年 大阪市立大学大学院工学研究科(応用
 化学専攻)修了(工博)
- ・化薬アクゾ(株)に勤務、長年研究部で技術
 サービス・製品研究開発に、その後同社厚狭
 工場・環境保安業務に従事
- ・退職後、山登り(日本百名山39座登頂)を始める。
- ・2009年よりアサギマダラのマーキング調査を
 本格的に始める
- ・長州アサギマダラの会 代表
- ・アサギマダラを調べる会 会員
- ・日本化学会 会員、日本高分子学会 会員
- ・コスモスの会(リフレッシュパーク豊浦)会員
- ・日本山岳会北九州支部会員(北九425)

■ 支部にルーム開設 ■

支部長 伊藤 久次郎

今年の初夢が現実になった。年頭で支部ルームのことを少しふれたが、現実にルームを持つことで、家賃など払えるだろうか、といろいろ悩んでいましたが、日向役員が「有志だけでも資金を出し合って、まずはルームを持つのではないかと」の意見で、役員一同その気になってしまった。

尾上会長の話から引用すると、日本山岳会では「ルーム」という言葉を使っているが、それは英国山岳会がクラブを「ルーム」と呼んでいる流れを汲んだもので、直訳すれば部屋で、概念としては事務所・事務局となる。

ルームの最低条件は、誰もが、いつでも、自由に利用できることである。そして、開設したルー

ムを有効に活用すること。最大のポイントは、「止まり木」の機能である。止まり木とは何か。飲み屋の止まり木ではない。でも、人が木に止まって駄弁るところは似ている。会長は止まり木を「同好会」と言い換えた。「スケッチクラブ」「カメラ同好会」・・・など。

当支部は、早速、同好会の第1号として「一等三角点研究同好会」を立ち上げることにした。ほかにも幾つかの同好会が立ち上がることを期待し、支部の活性化につとめていきたい。

現在、故人となられた重村伝平さん(元下関山岳会会長)の山の蔵書、約100冊を下関山岳会の会長井上佑氏からルームに寄贈を受けた。そして、4月を準備期間とし、4月の総会で賛同を得られれば5月1日から正式な支部ルームとして開設予定である。

本部・森 常務理事来福 九州工業大学山岳部学生と面談 事務局長 山田 武史

平成25年2月27日(水)15時から、武永会員の案内で九州工業大学を初めて訪問し、会議室で同大学山岳部の学生と面談しました。

1、メンバー

日本山岳会：本部・森 武昭 常務理事

当支部より：伊藤久次郎支部長、関口興洋副支部長、武永計介、山田武史

九工大山岳部：武永部長(当支部武永会員の息子)、萩尾、平井、武谷、小栗各山岳部員の5人。

2、ディスカッションの内容

森 常務理事より、日本山岳会の概況について、次のように説明した。

私が担当している「ユースクラブ」には、学生部、青年部、ワンダーフォ ゲル部がある。

[学生部] 学生中心のイベントを支援する。

(1件10万円で補助する)

中国、韓国、日本の3国学生交流登山を実施中で、今年は日本が担当。神奈川大学のクライミングボードを利用し、8月に開催予定。

[青年部] 8月に穂高、9月に劔岳登山を計画。

また、海外登山は1件20万円で、補助する。

学生側よりの状況説明と要望は次の通り。

ア、九工大の山岳部の現状は、メンバー10人、実働は5人。

イ、鹿児島大と連携して、数回屋久島に遠征。

ウ、8月に富山で開催される「文登研」(文部科学省登山研究所)には、今年も1~2人派遣したいが、そのタイミングで日本山岳会が計画している劔岳登山に合流できないか。

エ、8月に劔岳源次郎尾根にトライすることも考えているが、部員の中には未熟者もいる。このトレーニングを日本山岳会にお願いできないか。

3、森 武昭常務理事のアドバイス

現在、すでに鹿児島大学と連携の実績があるのだから、これをベースにほかの1~2の大学を巻き込んで、将来につながるイベントを企画してもらいたい。

日本山岳会への入会は、個人の入会は大歓迎だが、九工大が法人として入会も可能です。

部員のトレーニングは、地元同士が



(九州工業大学会議室にて)

良いと思うので、北九州支部が対応し、適宜本部もバックアップします。

4、今後の取り組みについて

日本山岳会北九州支部としては、九工大が法人として、または個人ベースで日本山岳会に入会されることを願って、今回、学生側より要望のあった諸点について検討し、解決を図っていきます。また、学生側との連絡については武永会員を経由することと致します。

森常務理事をお招きして

2月27日(水)18時より小倉市内の居酒屋「コール天」にて毎月定例のサロンを開催した。

通常は、懇親会の前に1時間ほど、本部の資料映像委員会よりいただいた「DVD」の鑑賞、或いは当支部会員に「海外遠征登山の思い出」を語ってもらうなどの場としていたが、今回は森常務理事に特別参加いただきました。

森常務理事にスピーチをお願いしたところ、本部での「ユースクラブ」の近況をはじめ、本日訪問した九工大山岳部の学生との面談状況とともに、今後の当支部の活動についても励ましの言葉をいただいた。

引き続いての懇親会の席に入ると、いつもの楽しいにぎやかなサロンとなりました。



(森 常務理事を囲んで)

風師山の榎有恒の記念碑へご案内

13643 関口興洋

サロンの翌日(2月28日)、関門海峡の眺望を眼下にできる風師山展望台(風頭)に建つ榎有恒(日本山岳会会長を二度勤め、マナスル登山隊長として初登頂に成功したJACの大先達)の記念碑見学のため、森常務理事を現地にご案内した。

展望台からは、源平合戦の最後の舞台となった壇ノ浦、その上に架かる関門橋、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘で有名な巖流島(正式には舟島)などが一望できる。

この記念碑は昭和31年のマナスル初登頂の翌年、榎さんが登頂報告のため九州各地を訪問された折に、門司の山岳会関係者が風師山へご案内した。

その際、風師山早朝登山会の堤甚五郎会長(元JAC北九州支部、NO.4162)の要望に応じて碑文を揮毫(きごう)された。これを基に記念碑が

建てられたが、当初の碑は風化のため昭和51年4月4日に再建された。

この碑をご覧になった森さんから、「榎さんの輝かしい経歴を記した案内板が欲しいね」との話がありました。その後、門司区役所の関係者と話す機会があり、同行した丹下さんから案内板の設置をお願いしたことを付記します。

(同行者 伊藤久次郎、関口興洋、丹下 洽)
碑文

この頂きに立つ
幸福の輝きは
これをとらふる
術を知りし
山人たちの
力によるものなり

昭和三十二年十月

榎 有恒

企救自然歩道吉志登山道の踏査

13465 大楠 益弘

支部報63号で、企救自然歩道からのエスケープルート探索の一環として、畑ルートは難があるので吉志ルートを踏査することをお知らせした。打ち合わせの結果、1月24日(木)に実施することとなった。

門司歩こう会の小田、当支部の丹下両氏と門司ベスト電器前に8時40分落ち合った。畑を通り吉田方面へ南進。天疫神社前を右折、都市高速道高架下にある吉志登山口に到着(9:02)。

市緑政課茂田課長、坂之下、区役所河野各氏の到着を待つ。9時34分全員そろったので登山口を出発。

右手に貯水池を見ながら、平坦な道に行く。貯水量は、2カ所とも相当量あり釣り人が訪れるようだ。左手に清流が現れる。春には山野草が楽しめそうな草地をたどる。九州電力の工事車両か、または木材の搬出入の林道でもあったようで比較的手入れは良い。やがてそれも狭い小道に入る。雨期には濁流が発生するのか、深く削

られた溝がわれわれの行く手を阻む。入山者の踏み跡はほとんど見当たらない。

2万5千分の1の地図通り進むと藤松ピーク(406[㍿])の直下南面のコルに達し、そこが分岐点となるはずである。そのルートと思われる枝尾根に達したが、草木が繁茂し、踏み跡が消えてしまっており廃道となったと思われる。

この一帯は、多くの枝尾根が張り出していて、ルートファインディングが難しい。入山者の誘導のため、張り綱を張りなおし通行止めとした。さらに進む。

登山道には、環境庁、県により設置された道標が随所にあるが、惜しいことに適切な位置にあるとは思えない箇所もある。次に現れた枝尾根に若干の踏み跡が認められたので、坂之下氏と踏査を試みる。100[㍿]も進まぬうちにいばらが生い茂り行く手を阻まれ止む無く退却。さらに北へ進む。

やや平坦で開けた沢沿いの道に出る。やがて勾配はやや急になる。一帯は南面であるにもかかわらず

湿地帯で岩場が少ないため、雨期には相当量の雨量で沢がはんらんするであろうか、急斜面は深くえぐられて歩きづらい。

道標もなくなり入山者はルート探索に難渋するであろう。途中、古びた定置ロープが数カ所張られているが、安全面で懸念がある。急斜面をよじり企救自然歩道のりょう線に達する。(11:19)吉志への分岐点である道標を確認し昼食を取る。11:48下山開始。

途中、朽ちかけた張り綱を撤去、新しくロープを張りながら吉志登山口に到達。

次のことを確認し、解散した。(18:12)

1. 吉志登山道は、枝尾根が多くルート探索が難しい。下山ルートとしても足場が悪く、今後とも荒廃は避けられないであろう。前回踏査の畑ルートは倒木伐採により比較的 safety が確保できるので、このルートをエスケープルートとして検討する。

2. 登山者の安全を図るため、登山口案内所と尾根の吉志分岐点道標には、難路などの表示をする。

日本三百名山ガイドブックの取材

日本山岳会では、「日本三百名山登山ガイド」出版の事業計画が決定され、2014年1月までの約1年間、31支部がそれぞれ地域の山を担当することになりました。(日本三百名山は、日本山岳会が選定したものです)

わが北九州支部は、英彦山と背振山の写真取材と原稿執筆を担当します。

なお、5月5日(子どもの日)、ミツバツツジの偵察と写真撮影を兼ねて、背振山登山を実施します。

1. 279 英彦山

コース(メイン):九州自然歩道

(正面コースから中岳~北岳コースへ)

銅(かね)の鳥居バス停~奉幣殿~中岳山頂~北岳~豊前坊~(九州自然歩)~別所駐車場

(参考として山頂から南岳コースも紹介)

中岳~南岳~鬼杉~玉屋神社~奉幣殿~別所駐車場

季節 10月中旬~11月初旬の紅葉。

1~2月の霧氷。

2. 280 背振山

コース

椎原バス停~船越橋~登山口~椎原峠~(九州自然歩道)~矢筈峠~背振山頂

(下山)~背振山頂~矢筈峠~車谷コース~船越橋~椎原バス停

季節 5月のミツバツツジ

取材担当 英彦山、背振山とも

井上 佑 伊藤久次郎(写真)

参考

1. 事業名:新版『日本三百名山登山ガイド』

上・中・下(全3巻)の刊行

2. 型 版: B 5 版・各208ページ・フルカラー(予定)

3. 予 価: 2,200円

4. 刊 行: 2014年5月(予定)

5. 編 者: 日本山岳会

6. 出版元: 山と溪谷社(予定)

カシミール3D講習会

13643 関口 興洋



(長府東公民館にて)

3月20日13時~17時、原会員のお世話で下関市長府の東公民館でカシミール3Dの講習会が開催されましたので概要を報告します。

講 師: 金光康資氏(13763) 日本山岳会京都・滋賀支部所属、山口県山陽小野田市在住
山口県の山岳に造詣深く、「防長山野へのいざない」などの著書がある。

講習内容:

1. カシミール3Dのインストール
2. 地図の設定
3. マップカッター

山行に必要な地図範囲を指定して切り取る手法

4. 展望図を作るカシバード

山座同定に便利な手法

5. カシミール一発判定

可視マップから、当該山座が見えるか見えないか直ぐ判定できる手法

6. ルートマップの作成

7. 断面図の作成

登山路に沿った断面図は「登山ルート」作成時におこなう

8. デジカメプラグイン

デジカメ写真で撮影した場所をGPSトラック地図上に表示する機能

カメラに保存されている撮影時刻とGPSに保存されている通過時刻を合体し場所を推定する手法

9. バージョンアップとインターネットカシミールHPから「アップデートキット」を選択しインストール、その際、前バージョンをアンインストールしないこと

参加者(敬称略): 16人

(JAC北九州支部) 原 広美、伊藤久次郎、西村信子、磯野文雄、関口興洋、榊 俊一、稲富 榮、福田陽子、竹本加代子、大谷恵美子

(JAC京都・滋賀支部) 伊藤禎洋、石田隆志、野原龍夫

(他の一般参加者) 藤原、弘中、泉

月例山行 1月20日(日)

英彦山でアイゼンワークの訓練

14523 榊 俊一



(中岳頂上にて)

2013年1月20日(日)日本山岳会北九州支部年始めの英彦山登山です。

別所駐車場までタイヤチェーンなしで、ゆっくりと車を進め、8時40分ころに到着するともうすでに全員集合のようです。

今回は、新人の若い女性の参加があり平均年齢が下がったの登山となりました。今回は、8人と少ない人数で、四王寺滝から直登し頂上へ、下りは山の斜面をキャンプ場に行く北西尾根を下ります。登山計画書もなく半強制的な、ありがたいお言葉に従うことにしました。



(四王寺滝)

駐車場を9時03分出発し、正面参道を進み奉幣殿に9時23分、安全祈願を行い26分出発しました。

雪はありますが、アイゼンはまだ上で装着しようとの話になり全員出発。玉屋神社と梵字ヶ岩の分岐に9時50分、他のパーティはアイゼンを装着していますが、そのまま進んで四王寺滝の分岐に10時10分到着、ここでアイゼンを装着して、四王寺滝へと進みました。

夏場の少ないテープを探しながら岩がゴロゴロした登山道とは異なり、冬場の道はすでに登った人の雪の足跡を固めた所を歩くだけで楽に登れました。四王寺滝に10時54分到着しました。

登山者が多く写真を撮るのも一苦労の状態で人気のある滝でしたが、滝全体の3割程度しか氷が無く残念でした。

写真撮影後、地図にない登山道に行くことになり、滝より左側の岩場横をヤブコギ状態で進み、さらに進むと今度は、直登の登りを木の枝をよけ、深い雪を踏みしめ、年寄りをよくもこんな所に案内するなーと思いながら登っていきま

した。

先頭のT氏が「もう少しでりょう線にです、がんばりましょう」と言いますが、田舎の道案内と同じでまだまだ十分にありそうです。

息を弾ませ、あえぎながらやっと八合目の産霊(ムスビ)神社に11時50分到着し、少しの休憩後頂上に向かいました。

頂上小屋に12時13分到着し、ここで昼食、写真を撮り43分出発しました。

下りは正面参道ではなく、頂上小屋の階段右側より山の急斜面を下り、県立青年の家を右手下に見て、さらに急斜面を下りてバードウォッチングコースの分岐に13時22分、避難小屋に13時28分着。

休憩後、野営場(キャンプ場)に向けて進み野営場に13時44分、別所駐車場に14時03分到着。

今回の登山は一般の登山案内図には無い急登の道とあまり人が行かない下りの道を行き、ハードな登山でしたが全員けがもなく無事、新年登山を楽しく終了することができました。(感謝)



(産霊神社へ)

参加者(敬称略)

板倉健一(L)、高島拓生
榊 俊一、竹本正幸、竹本加代子
赤瀬榮吉、縄手 修、下畑由美
(ビジター)



月例山行 2月7日(木)~11日(月)

念願の三鈷峰「天は我に味方せり」

13520 西村 信子



2月7日(木)

小倉駅前高速バス停に22:50、今回の参加者6人が集合し、23:30発の松江行きのバスを待つ。ビルの谷風が吹き抜けて寒い。

8日(金)曇り

松江~米子~大山寺へとJR・バスで移動。下山キャンプ場は30~40センチメートルの積雪。足踏みをし、雪面をならしてテント設営。13:00元谷へ。

大神山神社まではトレースは付いているが、それから先は全く無し。縄手さんが先頭を進む。昨年滑落停止訓練をした尾根(中宝珠越えに出る)より取り付くことを確認してテントに帰る。夕飯は五目御飯のアルファ米と豚汁。とても美味しかったですね。19:30早目に就寝。

9日(土)曇り時々晴れ

今日は念願の三鈷峰へ。4度目の挑戦です。

4時起床。5:35南光河原駐車場トイレを済ませて出発。大神山神社を経由して7:00、昨日確

(下山キャンプ場前の車道にて)

認した尾根より登り始める。急峻な尾根をラッセルして進むが、目の前に岩稜が立ちはだかる。左側の谷は絶壁、右側は切れ落ちた谷。右側を巻くにもかなり立っているとのことで撤退をする。ここで、1時間のロスタイム。昨年取り付いた1242㍻につき上げる尾根より再度挑戦。時間は8:00。登れるだろうか。



(ユートピア小屋へのトラバース)

尾根上の木々をかき分けながら竹本SLと縄手さんが交代でラッセル。P1242地点に着く。ここからは、やせ尾根歩きが続く。緊張の連続。中宝珠越と上宝珠越の間でアイゼン装着。

時折、青空がのぞき三鈷峰も見

える。「今年こそは・・・」と期待が膨らむ。

トラバース地点。昨年はホワイトアウトでこの地点で撤退。今日は青空。ユートピア小屋も、眼前に聳える三鈷峰もきれいに見えている。13:00ユートピア小屋に到着。

さあ三鈷峰へ。ここからは我々もちょっぴりラッセルをする。13:33竹本(加)さんトップの時に山頂到着。

ヤッター、山頂で握手。念願の三鈷峰の山頂に立つことができました。交代でラッセルをしてくれた竹本(正)さん、縄手さんに感謝。有難うございました。

出発前のミーティングの時に「今年は絶対登ろう、一日目駄目だったら二日目も三鈷峰を目指そうね」とうとう実現しました。思わず「天は我に味方せり」と感じました。

長居は無用。雪崩に注意しながらトラバース地点を通過。ホッと一息。来た道を戻り、中宝珠越より元谷へと沢を一気に下る。

16:50無事高島さんの待つテントに帰り着きました。その夜は乾杯、美酒に酔いしれました。

10日(日)曇り

4:00起床。目的も達したので今日は弥山へ。SLの竹本さんが体調不良とのことで、われわれが登っている間に高島さんと2人でテント撤収をして片付けてくださるとのこと。

6:00出発。トレースはしっかりと付いている。3合目でアイゼン装着。7:55、6合目で一休み。

6合目小屋から上はガスがかかり視界不良。風も強い。山頂直下の小屋も近くまで行かないと確認できないありさまです。

9:00山頂に到着。集合写真を撮ってすぐに下山。9:40、6合目に着く。下山は早いですね。

5合目からの下山道は霧氷が青空に映えてとってもきれい。輝いていました。

10:55下山キャンプ場にたどり着きました。テントは片付き、温かいココアを用意して待っていてくれました。これまたおいしかった。

「大山館」にて入浴。おソバを食べ、14:50大山寺発。米子よりJRで松江へ移動。日本海のおいしい幸を食べ21:40夜行バスの車中の人となる。



(前方が三鈷峰)

11日(月)

5:25予定通り小倉駅に到着。

今回、ようやく念願の三鈷峰に立つことができました。お正月過ぎに風邪をひき、こじらせてしまいました。20日の英彦山訓練山行も前日まで点滴をしていたので不参加。27日に英彦山を歩きましたが、久しぶりに筋肉痛。この状態で伯耆大山、果たして登れるだろうかと懸念していましたが、同行の皆さんのおかげで無事に歩き通せることができました。

冬の伯耆大山、今回は最後の参加かなと自分自身で決めていました。最後に念願の三鈷峰に立つことができ、うれしさも倍増です。これからは花や紅葉の大山を楽しみたいものです。

参加者:6人

板倉健一(CL)、竹本正幸(SL)、西村信子(記録)、高畠拓生(救急) 竹本加代子(食糧)、縄手 修(装備)

伯耆大山冬山山行の総括 13471 板倉 健一



(三鈷峰頂上にて)

山に思いを募らせたのは、久しぶりのことでした。今年の伯耆大山の冬山は、そんな山行でした。3年続けて宝珠尾根から三鈷峰を目指しました。

一昨年は、3人で雪がほとんど付いてない凍った宝珠尾根に取り付き、上宝珠越手前の岩尾根で退却しました。

昨年は、大量の積雪とホワイトアウトで、上宝珠越から剣谷のトラバースが分からず退却しました。

幾年の 思い踏みしめ 宝珠尾根

雪の三鈷峰 13時33分立つ 健一

月例山行記(2月23日~2月24日)

この年で スキー初体験!

北九448 大谷恵美子

広島県のめがひらスキー場から、大分県の九重スキー場に変更になり、スキーツアーのバスを利用してのスキー合宿に参加した。

2月の早朝、空気は冷たく、下関駅を5:45出発。小倉駅裏KMビル前6:15。ここで5人、博多駅前前で1人が乗車。博多駅ではほかに若者が多く、さすが冬季のスポーツなのと思った。

途中、バス会社の倉庫でレン



(初めてのスキー)

タル物を積み込み、基山PAに立ち寄る。一路九重を目指す雪らしきものはなく、これが九州

今年は、必ず三鈷峰に登るという気持ちを全員が持っていました。

前日に偵察していた中宝珠越に上がる支尾根の上部で、両側50mの雪の付いていない岩壁に阻まれ、引返しました。

1時間のタイムロスでした。ただちに下部の支尾根に取り付きました。トレースのない宝珠尾根は、ラッセル

の連続でした。宝珠尾根越からユートピアへのトラバースもトレースがなく、勝間ケルンを目印にしました。

8時間の行動で三鈷峰に登りました。1日の行動時間は、12時間近くでギリギリでした。

翌日の弥山は、吹雪きましたが、無事登りました。

トレースのない困難な尾根を3年続けて登ったことで技術的にかんがいの成果があったと思います。この経験と知識を次のメンバーに伝えてほしいと思います。



(九重スキー場にて)

できる楽しさを知った2日間。登山では痛くならない首筋と腰がパンパンだった。池田様をはじめ皆さまには大変お世話になりました。

参加者：6人 池田智彦(CL)、伊藤久次郎、関口興洋、馬場基介、大内喜代子、大谷恵美子



の冬山だー。テレビで九重の人工スキー場を夜中に作っているのを見たことがある。この年齢になってスキーは初めてのころみ。

10:30、バスがスキー場に着くと、多くの車と周りは薄茶色の冬景色の中、九重のゲレンデだけがまるで花が咲いているようだった。手続きを終わり、スキーウェアに着替え、ひよこ歩き姿で初心者コースへ。3人のマイコーチに教わることしばらく。2年目の馬場さんは上手にゆっくり滑っていた。うらやましい！早めに昼食を終えてベテラン組はリフトで上がって行く。スキーに操られているような・・・私。16:00にスキーを終えて、スキー場から久住高原コテージへ移動(17:00着)。夕食後はゆっくり湯につかり明日に備える。

2日目、晴天。9:00コテージを出発し、手際よく準備OK。女性2人(初心者)は、自分と戦っている。S字のスロープができることを宿題においといて・・・、でもケガもなく内心ほっとした。

若葉が茂り、花を求めて、今年も九重に出かけます。

16:00九重スキー場出発、17:15見晴らしの湯につかり21:00小倉着。

新しいことに無心でチャレンジ

「日本一早い」諸塚山の山開き

11977 溝部 忠増



(山開きのウッドカット)

「日本一早い」とうたう、諸塚山(1342^m)の山開きが、ひな祭りの3月3日盛大に行われました。宮崎県諸塚村、朝日新聞社主催で、今年で28回目、好天に恵まれてJAC宮崎、北九州支部をはじめ九州各地から1千人を超える登山客が頂上をめざしました。

頂上から高千穂、諸塚、椎葉、五ヶ瀬など九州中央山地の山々が見渡せ、さわやかな気分を味わいました。

この山開きは「朝日森林文化賞」を1985年に受賞したことを機会に、豊かな自然と山岳文化の宝庫で、村の象徴である諸塚

山を守りながら、都市と山村が交流する新しい村おこしのイベントとして始まりました。

参加者は年ごとに増え、村の人口を上回る2千人も集まった時も、遠く

広島、四国からも

駆けつけるようになりました。

この山の魅力は山頂一帯に、ブナ、ミズナラなどの、樹齢140年～190年の天然林が広がり、春の新緑にはアケボノツツジ、秋はもみじ、冬は樹氷で四季を通じて自然を楽しめます。

登山コースは西、南、北、の登山道があり、頂上との往復およそ2時間で、歩きやすい。岳人を歓迎する村人たちは、山里の特産品を使った手作りの素朴なお土産品を用意して歓迎、山開き前日は前夜祭を催して交流を深め、今回も二会場で催され、村をあげて岳人たちとの友好を深めました。

長崎県「致彦山」「屏風岳」を尋ねて

分水嶺踏査を思い出す達成感!

(新)一等三角点研究同好会 原 広美



(致彦山山頂にて)

長崎県五島列島の一等三角点「致彦山」(いたひこやま・326[㍿])と平戸「屏風岳」(394[㍿])の踏査に行ってきました。この目的は、われわれが所属する京都の一等三角点研究会が、来年、「一等三角点全国ガイド」という本を発行するための取材踏査である。

3月2日(土)

長崎自動車道を3時間走行。長崎港近くの駐車場に車を置き、五島列島、福江までフェリーに乗る。福江の民宿で1泊。夕食はさすが五島、新鮮な魚でテーブルいっぱいになる。明日に備え早めに就寝。

3月3日(日)

福江港、7時25分発の定期船ソレイユに乗船し、7時48分樺島(かばしま)の本寮(もとがま)港に着く。

上陸したものの、さてこれからどの道を行けばいいのか、地図を広げ方角を定める。念のため地元の住人に聞くと、「誰も行かないので道はない、あっちの方角」と言うだけ。心配そうに見送ってくれた。

20年前の先輩の山行記を頼りに、やぶを覚悟でコンクリートの道を行くと三差路に出会う。山行

記に書いてある道とは違う雑草に覆われた道がうっすらとある。両側はこけむした石垣が並び、昔は住居があったのだろう。

30分くらい進むと峠があり、採石場と思われる削られた山が見えた。「今日は日曜日、大きなトラクターはお休み。この道を利用して遠回りになるけどあの尾根に取り付こう」ということになった。

大正解! テープなど全くない樹林帯に入り、だだっ広い尾根を地図、コンパス、GPSで目標を定めながら山頂に取り付く。山頂は大岩があり、木で囲まれほとんど見晴らしはない。

三角点は少し下にある。こけむした一等の標識をきれいに磨き、また回りの枯葉をきれいに掃除を



(致彦山一等三角点)



(致彦山の遠景)

して写真撮影する。このような山は、よほどの物好きか一等三角点を目当てに登るくらいで、わざわざ登る人はいないだろう。

先輩がつけたと思われる、古びた赤いテープが山頂に1つだけあった。1日3便しかない、13時50分発に乗船しなければならないので、目印につけたテープを外しながら下山を急ぐ。うっそうとした森に白く香りの良いコショウの木を楽しみながら足取りは軽い。

港に着くと北九州の6人が山に登ったと、人口の少ない島民たちの話題になっていたそうだ。帰りは本寮港から定期船で14時13分福江に着く。ジェットフォールに乗り換え、2時間で長崎港に戻りホテルで1泊。

3月4日(月)

早朝、駐車場から長崎道を通り平戸大橋経由平戸島へ。最南端の志々伎、「屏風岳」へ向かう。

こちらは登山口標識があり、急登ではあるが登山道がしっかりある。山頂はやはり樹林帯で石仏がたくさん祭ってある。また不思議なコンクリートの2階建ての建物があった。

静かな山「致彦山」と「屏風岳」を踏破できたことの緊張感と達成感を全員で味わい、久しぶりに日本列島中央分水嶺踏査を思い出す感動の山登りができた。

次回は沖縄県を計画している。

参加者：6人 伊藤久次郎(CL)、原 広美(地図)、高島拓生(記録)、関口興洋(SL)、大木康子(会計補助)、倉本とき子(会計)

会 務 報 告

平成25年1月定例役員会報告

日 時：平成25年1月9日(水)

場 所：小倉商工会館3F会議室

出席者：伊藤支部長、関口副支部長、日向、原、
濱松、馬場、山田、丹下、藤田、中岡、
竹本、池田

欠席者：板倉

会務報告：平成24年12月1日に開催された支部長
会議について、伊藤支部長より報告。

議 題：

(1) 会員の異動と会費納付状況

、会員の異動(12月1日現在)

通常会員：81人(10月比-1人)

支部友：54人(10月比+-0)

会友：4人(10月比+-0)

合 計：139人(10月比-1人)

、会費納付状況

未納者8人に対し、発送する支部報に同封
して「振り込み用紙」と共に督促状を添付
した。

(2) 山行・行事報告

- ・11月9日(金)~11日(日)「九重山」広島支部と
の交流登山(広島12人、北九州14人参加)
- ・11月17日(土)~18日(日) 岐阜支部創立40週
年記念行事(当支部より1人参加)
- ・12月1日(土) 年次晩餐会 品川プリンスホ
テル(当支部より5人参加)
- ・12月2日(日)~3日(月) アフター山行「黒斑
山」(3名参加)
- ・12月8日(土) 支部の「忘年の集い、プリリ
アンサ門司港」(参加者は37人)
- ・12月18日(火) 霜降山(8人参加)

(3) 山行・行事計画

- ・1月20日(日) 英彦山(アイゼン歩行訓練)
- ・1月27日(日)~30日(水) スキ ツアー(梅池
スキ 場)
- ・2月7日(木)~11日(月) 大山山行(テント泊)
- ・2月23日(土)~24日(日) スキ 合宿(九重ス
キ 場)
- ・3月24日(日) 福智山~皿倉山縦走
- ・4月7日(日) 英彦山清掃登山(山の日制定PR)
- ・4月13日(土)~15日(月) 小島烏水祭
- ・4月20日(土)~21日(日) 平尾台で岩登り訓練

(4) 支部報(JAC北九だより)NO.63号の発行に

ついて

- (5) 支部規約改正の件(通常会員の会費徴収につ
いて)
- (6) 本部宛提出する25年度の事業計画について
- (7) ルーム開設の検討状況について(株)毎日ビル
ディングより見積書受領。
資金面で今後検討する。
- (8) 森 常務理事の来福について
・2月26日~28日来福、27日は九工大山岳部
学生と面談予定。
- (9) 第14回通常総会について
・4月20日(土)15時より、ホテル「ニュー
タガワ」で開催する。
- (10) その他
役員を退任したい旨の申し出である。

(記載者：山田 武史)

平成25年3月定例役員会報告

日 時：平成25年3月6日(水)

場 所：小倉商工会館3F会議室

出席者：伊藤支部長、板倉、関口各副支部長、原、
濱松、馬場、山田、丹下、藤田、中岡、
竹本、池田、

欠席者：なし

会務報告：1月26日(土)~27日(日)開催の「事務局
担当者会議」に山田が出席した。

24年度会計報告に関する注意点(3月末締
切)、各支部より25年度事業計画の報告、
その他300名山ガイドブック作成、全国支
部懇等テーマ多数の会議だった。

議 題：

(1) 会員の異動と会費納付状況

、会員の異動(平成25年3月1日現在)

通常会員：77人(1月比4人減)

支部友：54人(1月比+-0)

会友：4人(1月比+-0)

合 計：135人(1月比4人減)

、会費納付状況

4人が未納。(1月は8人だったが、4人
より入金があった)

(2) 山行・行事報告

- ・1月20日(日) 英彦山(アイゼン歩行訓練)
8人参加。
- ・1月27日(日)~30日(水) スキ ツアー
(梅池スキ 場)「九州と信州の会」20人中、
当支部より6人参加。
- ・2月7日(木)~11日(月) 大山山行(テン
ト泊)6人参加。

- ・2月23日(土)~24日(日)スキ 合宿
(九重スキ 場)6人参加。
- ・2月27日(水)森常務理事来福、当支部伊藤支部長ほか九州工大を訪問、山岳部学生と面談、J A C北九州支部への入会を勧誘した。

(3) 山行・行事計画

- ・3月24日(日) 尺岳~皿倉山縦走 シカ一斉捕獲日のため、登山中止。
- ・4月6日(土) 皿倉山 登山技術専科
- ・4月7日(日) 英彦山清掃登山(併せて、山の日制定PR)
- ・4月13日(土)~15日(月) 小島烏水祭(四国支部主催)
- ・4月20日(土)第14回支部通常総会
- ・4月27日(土)平尾台での岩登り
- ・5月7日(火)~8日(水) 五葉岳~夏木岳縦走
- ・5月11日(土)皿倉山登山技術専科
- ・5月25日(土)~26日(日)英彦山山開き
- ・6月8日(土)~9日(日)尾鈴山
- ・6月15日(土)福智山七重の滝(園川講師による沢登り)

(4) ルーム開設状況について

3月6日に毎日ビルディングと打ち合わせの結果、次の通りで決定した。

、3月31日で「信州観光センター」との契約は終わるが、J A Cが4月20日の総会で承認となった時は5月1日付で「信州観光センター」と同条件にて賃貸契約する。

、4月1日よりの1カ月間は準備期間となるが、賃料無料で随時利用できることになった。なお、4月20日の総会で承認の折は5月1日にささやかなセレモニーを企画することにした。

(5) 4月20日開催の第14回支部通常総会について通常総会の準備のため、次の通り、臨時役員会を開くこととした。

- ・日 時：4月2日
15:00より会計監査、17:00より臨時役員会
- ・場 所：(仮)新ルーム

(6) その他

福岡県岳連主催の「海外登山研究会」が3月24日(日)13:00より戸畑で開催される。

北九州市門司区から当支部に要請のあった大里南市民センターでの「登山教室」は、市の予算も付き、4月より開講されることになった。初回の4月20日は大楠会員が講師を務められるが、当支部の総会と重なるので、時間変更を検討することになった。

(記載者：山田 武史)

1月小倉サロン 1月23日(水) DVD「女が山に登る時、花への思いを馳せて」

1月の小倉サロンは「女が山に登る時、花への思いを馳せて」と題する講演の記録DVDが放映されました。

日本山岳会100周年特別企画、連続講演会、第3回、坂倉登喜子名誉会員の講演記録です。(平成16年10月6日)

坂倉登喜子さんは、1910年生まれ。1949年日本山岳会婦人部設立の基礎を作る。1955年、日本で初の女性だけの山岳会「エーデルワイスクラブ」を創立し、女性登山の向上と後進の指導にあたる。90歳を過ぎても北アルプスなどを登り、登山の普及に努めた。

以下坂倉さんがお話された内

容の一部です。

昭和10年の夏、夢見たエーデルワイスと運命的な出会いをする。谷川岳の岩陰で見つけたウスユキソウ(エーデルワイスの変種)はまばゆいばかりの輝きを見せ、白い星の瞬きに似た麗しい姿であった。清楚な花が厳しい自然に耐えて咲く、その力強い生命力に私は魅了された。

以来、エーデルワイスを心の花と決め、清く、優しく、強く生きて行こうと誓った。この出会いが、エーデルワイスを訪ね歩く山旅人へといざない、私の花追い人生が始まった。

女性らしい登山へのこだわりでは、自分の体力で登り、絶対



に無理をしないというのは安全な山登りに大切なこと。ゆとりのある登山があって、初めて山の楽しさを知るのだと思う。

山にも順序というものがあるから、ゆっくりと順番に登っていけばいい。憧れだけでいきなり3000級の山に行かないでほしい。

最後に、山の登り方、味わい方はそれぞれでいいが、安全で楽しい女性らしい登山へのこだわりをもち続けてほしい。と締めくくりました。

96歳で山登りをやめてからも、「中国に咲く、香りあるエーデルワイスにいつか会いに行きたい」と夢を語っていたという。坂倉さんは、老衰のため98歳でご逝去されました。

参加者：14人 竹本正幸 記

山岳遭難した時の救助費用は？

遭難件数は、日本アルプスがそびえる長野県では2012年、過去最悪の254件でした。県警によると遭難者の約8割は40代以上。県警は「中高年が老化による体力低下を十分認識せず、体力を過信して遭難に結びつくことが多い」と注意を呼びかけています。

もし遭難したら長野では、まず県警山岳遭難救助隊(隊員28人)が現地に向かいます。

登山者が所属する山岳会や家族から通報があった時、下山予定日になっても戻らず宿泊先が通報した場合などに出勤しますが、最近は登山者自身が携帯電話などで救助を要請することもあります。

必要があれば県警が、民間人でつくる山岳遭難防止対策協会(遭対協、隊員約1100人)に出勤を要請します。隊員は山小屋従業員や県警OBらで、山の地形や気象に詳しい人達です。これらに加え、近年はヘリコプターによる空からの救助が力を発揮しており、長野では2011年、県警や県、民間の

ヘリによる救助件数が計182件で全体の8割強を占めました。

県警の出勤は警察法に基づく業務なので費用の請求はありません。しかし、遭対協が出勤すれば、遭難者や家族が隊員の日当などを支払わねばなりません。日当は1人当たり夏場は約3万円、危険性の高い冬場は約5万円。また、民間ヘリは「1分1万円」とされ、高額です。県警が遭対協に出勤要請する時は、家族らの同意を得ることになっています。他では、冬場の日当が10万円という

民間隊員 日当3万円～10万円

高額出費に備え 保険加入が必要

県もあるようです。

長野県警は登山者に、救助費支払いなどの特約が付いた「山岳保険」への加入を勧めています。日本山岳救助機構(東京都)は年会費2000円で、国内で山岳遭難した場合、捜索費用などとして最大330万円補償する制度を運用しています。登山には危険がつきもの。自分の身は自分で守る心構えと、天候など条件次第で引き返す勇気を持つことが大事です。

(2013年1月13日 毎日新聞記事より)

スポーツ安全保険の加入を

13523 瀨松 禮子

当支部では、入会時に山岳保険に加入することを義務づけておりましたが、皆さまに周知徹底していない面もありました。

通常会員には毎年本部から送られてくる「日本山岳会団体傷害保険」の加入をお勧めします。

支部友会員は上記の保険には加入できません。

軽登山を対象とした「スポーツ安全保険」は、北九州支部の団体保険として申し込みを受理しております。通常会員、支部友会員ともに加入できます。この保険は、「団体の管理下」における団体活動中の事故が対象となります(個人山行は対象外)

当支部でパンフレットを用意しております。ご請求下さい。

参 考

好日山荘「山岳保険」

日本山岳救助機構「jRO」

捜査・救助費用「レスキュー費用保険」

山岳共済会の山岳遭難・捜索保険

等がありますが、個人での申し込みとなります。

小倉サロン

- ・いつ：毎月・第4水曜日
- ・場所：小倉北区魚町「コール天」
- ・時間：午後6時30分から
- ・参加申込：事務局 山田武史
(TEL090-6422-5662)

- 4月サロン 24日(水)
- 5月サロン 22日(水)
- 6月サロン 26日(水)
- 7月サロン 24日(水)



博多サロン

- ・いつ：3カ月に1回・第1木曜日
- ・場所：福岡市博多区吉塚本町13-55
サンヒルズホテル内 居酒屋「呑多来」
- ・時間：午後6時30分から
- ・参加申込：榊 俊一(TEL090-8416-4194)

- 5月サロン
2日の予定でしたが行事重複のため中止になりました。
- 8月サロン 1日(木)

山行計画のご案内

5月の山行

1.アケボノツツジの夏木山、五葉岳登山

とき：5月7日(火)～8日(水)

集合：5月7日 12時30分 豊前おこしかけ

又はととの森うめキャンプ村(道の駅うめ、326号)(16:00)

宿泊地：大分県佐伯市宇目大字南田原2513-3

TEL：0972-54-3088

ととの森うめキャンプ村

費用：キャンプ村ログハウス 3,000円程度/人

その他：有(テレビ、冷蔵庫、台所用品、ガスコンロ、寝具、風呂、トイレ)

無(お茶、調味料、タオル、ブラシ)

各自用意するもの(7日夜の食事、8日朝食、登山中の行動食、飲み物等)

申込み：榊 俊一

(TEL：092-947-3208、090-8416-4194)

締切り：平成25年4月20日(土)

2.第2回山岳技術専科

テーマ：「一般登山路の事故対策、救助」

講師：JAC 園川陽造 顧問

とき：5月11日(土) 9時～15時

場所：皿倉山ビジターセンター及び国見岩付近

集合：午前9時、帆柱ケーブル山麓駅駐車場

行程：山頂・国見岩付近まで登山、途中技術講習
研修室で実技のまとめ、質疑応答

申込み：竹本正幸(TEL0930-28-9611)

締切り：5月6日(5日前)

3.英彦山山開き

とき：5月25日(土)～26日(日)

ところ：英彦山

行程：25日(土)前夜祭

26日(日)山頂で山開き神事

申込み：縄手 修(TEL：093-472-5935)

高島拓生(TEL：0948-53-1740)

締切り：5月10日

前夜祭に参加する人は、バンガローを利用します
ますので早めの申込みをお願いします。



6月の山行

1.尾鈴山(1405^{メートル})

とき：6月8日(土)～9日(日)

ところ：尾鈴山(宮崎県)

集合：小倉駅北口KMMビル前6:45

行程：6月8日(土)

小倉発7:00～おこしかけ8:30～九重頭キャンプ場14:00 (夕食まで矢研ノ滝見学)

宿泊：「いこいの森林館」(自炊用設備完備)
6月9日(日)

キャンプ場発6:00～矢筈岳10:00～尾鈴山
11:00～キャンプ場14:30 発15:00

小倉着22時頃、(下山後温泉で一浴予定)

費用概算：13,000円(バス代、宿泊費、食糧等)

申込み：関口 興洋(TEL 093-382-6436)

締切り：5月15日 定員17人(マイクロバス利用)

2.第3回山岳技術専科

テーマ：「沢登り技術」

とき：6月15日(土) 9時30分～15時

場所：七重の滝

集合：午前9:30 鱒淵ダム下の公園

申込み：竹本正幸(TEL0930-28-9611)

締切り：6月10日

7月の山行

1.第4回山岳技術専科

テーマ：「ザイルワーク(ビレー方法)」

とき：7月13日(土) 9時～15時

場所：皿倉山ビジターセンター及び国見岩付近

集合：午前9時、帆柱ケーブル山麓駅駐車場

申込み：竹本正幸(TEL0930-28-9611)

締切り：7月8日

2.南アルプス縦走

とき：7月22日(月)～26日(金)(4泊5日)

ところ：南アルプス(千枚岳～悪沢岳～荒川岳～赤石岳縦走)

行程：

22日 博多(7:00)/小倉(7:17) 静岡(12:17)

畑薙第1ダム～榎島ロッジ(泊)

23日 榎島ロッジ～千枚小屋(泊)

24日 千枚小屋～千枚岳～悪沢岳(東岳)～荒川岳～荒川小屋(泊)

25日 荒川小屋～赤石岳～赤石小屋(泊)

26日 赤石小屋～榎島 畑薙第1ダム～静岡
 (17:11)小倉(21:26)/博多(21:43)
 費用：交通費概算40,000円、山小屋料金(1泊2食付8,000円、素泊まり5,000円)
 申込み：山田武史(TEL/FAX:092-844-3563)
 関口興洋(TEL/FAX:093-382-6436)
 締切り：6月15日(土)
 参加者が決定次第、準備会を開催予定

お知らせ



6月に予定されていた
 広島支部との交流登山は、10月に変更になりました。
 ・日程：平成25年10月26日(土)～28日(月)
 ・目的地：三瓶山(島根県)1126m

**「スキルアップで
 楽しい安全登山を…」**

山岳技術専科予定

第5回：8月3日(土) 地図の見方と計測について
 第6回：9月7日(土) 岩場の救助技術・自己脱出

講師：J A C 園川陽造 顧問
 集合：午前9時、帆柱ケーブル山麓駅駐車場
 時間：午前9時～午後3時
 場所：皿倉山ビジターセンター及び国見岩付近

編集後記

・山岳技術専科が4月より始まります。大学生も参加することになり、支部の若返りも一歩前進かなと思う反面、若者に同行できるように体力維持の必要性を実感します。皆さん技術専科に参加して技術アップを図り、各々のパイオニアワークにチャレンジしませんか。「今この時」を大切に安全登山に心掛けましょう。
 ・支部ルーム開設のため、今回より広告を募集するようになりました。(竹本)
 ○原稿は事務局長山田武史又は竹本正幸へ。
 ・メールまたはFAXをお願いします。
 ・Eメール(写真を含む)は竹本宛て
 ・アドレス：takemoto.masayuki@white.plala.or.jp
 (65号の原稿は6月25日までお願いします。)

登山・アウトドアの専門店
好日山荘
 SINCE1924

里山ハイキングからアルプス、海外トレッキングまで、
 専門店ならではのアイテムが幅広く揃います。

好日山荘 アイム小倉店

〒802-5002 福岡県北九州市小倉北区京町3-1-1 COLET/I'm 7F TEL:093-541-2623 営業時間:10:00～20:00

登山者のための登山ハイキングからトレッキング、雪山登山などなど、登山者にとって必要なアイテムが揃っています。お買物の登山の季節に合わせてアイテムも揃えていきます。ぜひお立ちください。

至博多 至門司

小倉駅 小倉駅前郵便局 九州電力 小倉中央小 砂津バスセンター

リーガロイヤルホテル小倉 砂津川

北九州モノレール 平和通駅

アイム小倉店
 COLET/I'm 7F

有料P有り

株式会社好日山荘ホームページ
<http://www.kojitsusan.co.jp/> 好日山荘

よし
山ヤが集う 吉すし



小倉駅南口から東南東、徒歩3分
 小倉駅から一番近い寿司屋
 小倉北区京町3丁目6-14
 TEL: 093-541-2623
 橋爪 久吉(会員番号 北九423)
 橋爪 明代(会員番号 北九442)



ご来店をお待ちしています